

食堂

薬師寺の北側には、長さ 41 メートルの印象的な赤と白の建物があります。これは、再建された寺院の食堂です。元来は、僧が食事に参加するために 730 年に建てられたと考えられており、自由に集まって話することができる場所でもありました。発掘作業によると、堂はかなりの規模で、少なくとも 300 人を収容するのに十分な大きさでした。規模において奈良の東大寺と大安寺に次ぐものであると言います。全盛期には 300～350 人の僧が修行していました。

元の食堂は 973 年に火事で破壊され、30 年後に再建されましたが、そこからの建物の歴史は、2017 年に現在の建物が完成するまで不明です。新しい建物の外観は奈良時代（710～794）を思わせますが、その広々とした装飾は、モダニズムな感覚も持つ世界的に有名な建築家・伊東豊雄によって設計されました。床の円形の輪郭は、発掘調査で元の建物の大きな屋根を支える柱の形跡が見つかった場所を示しています。

今日、このホールは多目的施設として機能し、宗教儀式からシンポジウムまで、幅広いイベントを開催しています。優れた音響効果により、コンサートにも最適です。また、さまざまなアートやその他の展示会も開催されています。